

令和3年度 宇都宮市立細谷小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら考え正しく判断し、豊かな心でたくましく生きる児童の育成

≪目指す児童像≫

- ・明るく思いやりのある子（豊かな心の育成）【やさしく】
- ・健康でねばり強い子（健康・体力の向上）【つよく】
- ・よく考え進んで学ぶ子（基礎学力の定着）【かしこく】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化に向け、児童一人一人が自分のよさや可能性を認識しながら、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる能力を育む特色ある教育活動の展開に努める。また、様々な社会の変化に適切に対応し、児童の学びを保障するとともに、安全・安心で誰からも信頼される学校を目指す。

そのために、「優しさ笑顔いっぱい学校」を合言葉に、全教職員が教育的愛情と専門職としての自覚と使命感をもって確かな指導力を身に付け、和の信頼関係のもとで協働するとともに、家庭や地域と連携を深めながらチーム細谷としての力を高め、児童はもとより、教職員、保護者、地域住民にとって魅力のある、活気と創意に満ちた学校づくりを推進する。

チーム細谷による、優しさ笑顔がいっぱい学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童一人一人が自分のよさや可能性を認識し、自己有用感を高めながら夢や目標に向かってねばり強く努力できるよう、全ての教育活動を通して認め励ます指導を推進する。
- (2) 児童に確かな学力を身に付けるため、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、発達段階や個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (3) ○児童に規範意識、思いやり、やり抜く心などのたくましさや育むため、道徳教育と関連を図りながら、地域の特色や教育的資源を活用した体験活動や交流活動を実施する。
- (4) 児童に健康で安全な生活を送ることができる資質・能力を育むため、自分の健康や体力への関心を高め、心身の健康を心がける指導や運動の日常化を促進する指導を充実する。
- (5) 学校と家庭、地域が連携を深められるよう、魅力ある学校づくり地域協議会を通した一層の地域教育力の活用や、積極的な情報発信により地域とともにある学校づくりを推進する。
- (6) 教職員が健康で生き生きと本来の職務に専念できるよう、全教職員の共通認識のもとで校務の見直し、精選、効率化を進め、学校の働き方改革を推進する。

[宝木地域学校園教育ビジョン]

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します
～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法・教育基本法・学校教育法・同法施行規則並びに小学校学習指導要領・県教育委員会の方針・市学校教育推進計画及び学校教育スタンダードを受け、本校の教育目標の達成を期し、令和3年度指導の重点等を踏まえるとともに、本校や地域の実情、児童の実態等を考慮しながら、「生きる力」を育む心・徳・体の調和のとれた教育課程を編成する。
- (2) 義務教育9年間における発達段階に即した指導と、地域学校園教育ビジョンの実現を図るため、地域学校園内の小中学校と連携して小中一貫した教育課程の編成に努める。
- (3) 教育活動の質の向上と発展に資するよう、学校評価をはじめとした各種評価、学力調査や質問紙調査の分析結果等を踏まえて課題を明確にし、教育課程の改善と充実を図る。
- (4) 社会に開かれた教育課程を意図し、地域社会や保護者等の願いを考慮して教育課程を編成するとともに、本校の目標や特色ある教育活動等についての発信に努める。
- (5) 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科横断的な視点でカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- (6) 感染症や災害等の緊急事態などに適切に対応しながら児童の学びを保障できるよう、GIGAスクール構想の実現に努めるとともに、指導形態や指導法を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感を高める指導を家庭、地域と連携しながら全教育活動を通して推進する。 ・チーム細谷としての力を一層高めるとともに、学校の働き方改革を推進する。 ・GIGAスクール構想の実現に向けた取組を着実に進める。 <p>○積極的な情報発信と地域教育力の活用を通して地域とともにある学校づくりを推進する。</p> <p>【 学 習 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学び合いの重視 <p>○基礎・基本の確実な習得を図るための、まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化</p> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな体験活動や交流活動の重視と、それらとの関連を図った道徳科授業の充実 ・明るいあいさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いができるようにする指導の充実 <p>○規範意識や正義感を高め、基本的な生活習慣やマナーを身に付ける指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考え、正しく判断して行動する児童の育成（いじめを生まない指導の推進） ・特別な配慮を要する児童（不登校含む）の共通認識に基づく対応ときめ細かな指導 <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で目標を立て、達成に向けて粘り強く取り組むことができる活動の工夫 <p>○自分の体力について関心をもち、自ら進んで運動に取り組む指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康への関心を高め、感染症の予防を含めた生活習慣を身に付ける指導の工夫 ・望ましい食習慣を身に付けるための、給食の時間や各教科の指導の工夫と家庭との連携 ・児童が安全を心がけ、自ら危険を予測して回避できる行動力を身に付ける指導の充実
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点項目・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかり聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答率 85%以上</p> <p>⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1「きらきら細谷っ子学習の約束」に基づき、話の聞き方「話す人の方に目と体を向ける」「最後まで聞く」発表の仕方「手を挙げて、ゆっくりはっきり話す」「丁寧な言葉で話す」の徹底を図る。</p> <p>2児童が意欲的に授業に取り組めるよう、導入を工夫したり、学び合いの場を設定したりするなど授業形態を工夫する。</p> <p>3授業の中に発表や話し合い活動の場を意図的に設定して、聞くこと・話すことの日常化を図る。</p>	B	<p>※肯定的回答率の▼は、設定した数値指標を3ポイント以上下回っているものを示す。また、↑↓は、昨年度と比較し3ポイント以上上下のあったものを示す。</p> <p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：教職員 87.5% 児童 90.1%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、聞き方・話し方の合言葉を各学級に掲示したり、指導したりしてはいるが、聞き方・話し方が定着している児童となかなか定着していない児童との差がみられた。 ・2については、今年度導入されたクロームブックの活用や授業の中での導入、学び合いの工夫を授業で行うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症対策をしながらの学び合いの設定は制限があり、難しいところもあった。 ・3については、感染状況によって難しい時期もあったが、密にならないように気を付けながら発表や話し合い活動の場を設けることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・話し方・聞き方の合言葉を積極的に活用し、児童の定着を図る。 ・自信をもって大きな声で発表できるように指導していく。

<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づき、「相手の気持ちを考えて生活する」ことの徹底を図る。 2自己有用感を高める指導を、家庭、地域と連携しながら、全教育活動を通して推進する。 3道徳の時間や、帰りの会でその日の振り返りなどをし、認め励まし合う中で児童一人一人が自らのよさに気付き、自信を深められるようにする。 4学校行事や児童会活動、授業でのペア学年活動など、3密にならない方法でのクラス以外での交流を工夫し、異学年のふれあいを充実させ、思いやりの心を育てる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 93.1%↑ 児童 89.4%↑ ・1については、日頃から継続的に指導を行ったことで、友達に何かを伝えるときの言葉遣いに気を付けたり、困っている友達に優しく手を差し伸べたりする児童の姿が多く見られた。 ・2については、児童の自己有用感を高めるために、学校全体として認め励ます指導を行ってきた。それにより、児童が自分に自信をもち心にゆとりができることで、相手にも優しい気持ちで接することができるようになってきた。 ・4については、新型コロナウイルス対策のため実施が困難であったが、縦割り班清掃のときには、上学年が下学年の面倒をよく見ていた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～4の取組を行っていく。 ・特に2については、「自己有用感」という言葉について家庭や地域に積極的に発信をし、学校と家庭、地域で協力をして児童の自己有用感を高められるように連携を図る。</p>
<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1「きらきら細谷っ子生活の約束」が日常的に守れるように、毎月の生活目標を設定し、各学級の朝や帰りの会などで振り返りを行う。また、巡回指導を行い継続的に指導していく。 2道徳の授業内容を充実させるとともに、ルールやきまりを守ることの大切さや必要性を、具体的な場面の中で指導する。また、児童会を中心として児童からもルールやきまりを守ることの大切さを発信できるように支援していく。 3児童の実態把握に努め、校内外の児童の様子について全職員で共有するなど、全校体制による指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員▼70.8% 児童 83.9%↑ ・1については、学級ごとに朝の会で生活目標を確認し、帰りの会で振り返りを行うことで、意識づけを図れた。目標の達成度は個人差があるので、継続して指導していく。 ・2については、休み時間や給食の時間に、各委員会が放送でルールやきまりを発信した。特に高学年児童においては、教師主導よりも児童からの働きかけの方が、より良い行動につながる場面がみられた。 ・3については、打合わせの後、定期的に情報交換の時間を設けており、共通理解を図れている。また、休み時間に教職員が見回りをすることにより、担任だけでなく複数の視点で児童一人一人の様子を見ることができた。 【次年度の方針】 ・1～3の具体的な取り組みを行うと共に、休み時間の遊び方について、児童会を中心に児童主体できまりを決め、児童から児童へきまりを守る大切さを伝える取り組みを行う。</p>
<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1教師自らが児童に明るいあいさつの範を示し、よくあいさつのできる児童について折に触れて称賛する。 2児童会中心のあいさつ運動を実施したり、登校班長会議で班長にあいさつ励行を呼びかけたりし、あいさつの習慣化を図る。 3〇地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、あいさつをする気運を高める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 80.9% 児童 90.6% ・1については、登校時積極的にあいさつできる児童が増えた。 ・2については、代表委員を中心にあいさつ運動を実施することができた。また、「あいさつ頑張り隊」の結成や、学期に1度の登校班長会議の実施により、あいさつへの意識が高まった。あいさつ運動をすることで、行っている側も自信をもってあいさつをすることができるようになった。 ・3については、コロナ禍ではあったが今年度2回の小中合同あいさつ運動を実施することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・あいさつ運動を本年度のように定期的に行う。 ・あいさつ運動は、児童会を中心に活動できているが、さらにあいさつの習慣化へ意識を高めていく。</p>

<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」</p> <p>⇒保護者の肯定的回答率 80%以上</p> <p>「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 教科の学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人にめあてをもたせ、指導し、それを評価したり称賛し合ったりして、最後まで頑張る態度を育てる。</p> <p>2 自学ノートや漢字ノートの頑張りを掲示するなどして、学級で見える化するとともに蓄積していく。</p> <p>3 児童の頑張っている様子を、保護者に知ってもらえるよう、各種たよりや学校ホームページ等で積極的に伝えていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：保護者▼74.3% 児童 82.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、授業の始めにめあてや活動の流れを提示したり、励ましにつながるカード等で称賛したりすることで、様々な場面で児童が最後まで頑張る姿が見られた。 ・2については、手本となる自学のコピーを掲示したり、紹介したりすることが、児童への称賛や児童同士の認め合いにつながり、自学へ意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、自学への取組については、個人差が多いのが現状である。 ・3については、新型コロナ感染予防のため、保護者が学校の様子を知る機会が減ってしまったためか、保護者の肯定的割合が下がってしまったが、学年だより等に写真を入れて紹介したことや、各学年や学校行事での児童の頑張りをホームページに進んで掲載したことは、学校の様子を知らせる上でよかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、1～3の具体的な取組を行っていく。 ・特に、2については、自学頑張り週間などを各学年で設定し、保護者に協力を促していきたい。また、3については、ホームページを閲覧して学校の様子を知ってほしい旨を学年だより等で知らせ、啓発していく。 ・さらに、目標や将来に向かうためのキャリアパスポートの活用を深め、家庭と協力して、目標をもって頑張る児童の育成をしていく。
<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」</p> <p>⇒保護者の肯定的回答率 85%以上</p> <p>⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 健康や運動への意欲を高め、めあてをもって自己の体力向上を目指せるように、学習カードや頑張りカードを活用し、日々運動に取り組めるような手立てを講じる。</p> <p>2 児童の安全への意識を高めるため、避難訓練を年4回実施する。また、避難訓練の事前指導の充実を図ったり、日々の生活の中で危険を感じた経験を学級で共有したりする時間を設ける。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：保護者 87.1% 児童 91.8%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、「マッチョマンだより」による様々な運動の呼びかけもあり、進んで運動に取り組もうとする姿が多く見られた。また、体育の授業で振り返りを行い、児童自身の目標に向かって取り組めるようにしている。縄跳びカードやマラソンカード等が効果的で、意欲的に運動に取り組んでいる児童が多かった。 ・2については、教室内で危険な行動をしている児童をみるのがあったので、その都度指導をしている。また、避難訓練の他に、交通安全教室によって安全意識を高めている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～2の取組を全職員で行っていく。 ・廊下の歩き方や健康チェック習慣など、健康や安全に関係するものについても、ご褒美カードを取り入れていく。

<p>A7 児童は、夢や目標をもつて、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 学校教育の様々な場面で、個人の目標だけでなく、学級や集団としての目標を設定し、みんなで協力して目標に向かって努力する経験を積み重ねられるようにする。</p> <p>2 全学年、学級活動や総合的な学習の時間で、夢や目標を発表する時間を設け、実現に向けた取組を支援していく。</p> <p>3 集団の目標が達成できた成功体験を数多く経験できるように、他者のために活動する喜びを体得できる活動を意図的に設定する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者▼74.3% 児童 82.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については掲示して見える化が図られている。学級の目標などを設定し、その目標を意識して頑張ることができた。また、学級の一年間の目標だけでなく、各月ごとの目標も決め、それぞれの目標に向かって努力できるようにすることができた。 2については、学級の目標をどの学級も学年当初に決めてきた。 3については、各学級でイベントを企画・実施するなど、行事が少ない時期にクラスで共通の目標を作ることができて効果的だった。今後は、児童自身が、自分の夢や目標を再確認するような工夫が必要である。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実を図る（6年生の総合的な学習の時間等で） キャリアパスポートの効果的な活用を図る。 学校目標・学年目標を活用し意識を高める。
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 授業の中で、ALT と児童、担任と児童、児童同士が英語を使ってやりとりをする場面を意図的に設けるよう、担任と ALT の事前打合せを行う。</p> <p>2 休み時間や給食の時間などに、ALT に、児童に積極的に話しかけてもらい、英語を使うことを日常化する。</p> <p>3 週1回、朝の英語タイムを設けて英語に親しむことができるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：児童▼81.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、ALT と担任が児童のお手本として、本時で使う英語表現を用いてやり取りする場面を意図的に設けるように、事前打ち合わせを行った。 2については、クラスによっては、昼休みに遊びに参加してもらうこともあったようだが、英語を使ってのコミュニケーションまでは見られなかった。また、新型コロナウイルスの感染防止のため会食はできなかった。 3については、動画を視聴したり、掲示資料を使ったゲーム的内容を取り入れたりして、週1回英語に親しむ時間が確保できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1のやり取りの中に「担任と ALT」を追加。担任が積極的に英語を使う姿を児童に見せ、お手本とする。 2の「給食の時間での英語の日常化」は、コロナ禍の黙食では難しい。その代わりに ALT と交流する・遊べる昼休みを各クラスに割り当てることで、児童が ALT と英語を使ってコミュニケーションを図れる機会を増やす。 3は、学年・学級の実態に応じて、歌やゲームで英語に親しむ時間・コミュニケーションを図る時間など工夫しながら、今後も継続実施する。
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 生活科や社会科、総合的な学習の時間などで身近な地域や宇都宮全域に関する学習をする際に、その良さについての教材研究を十分に行う。</p> <p>2 身近な地域や宇都宮について校内研修を行い、教師自身が宇都宮についての理解を深める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 79.2% ↑ 児童 84.9% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、生活科や社会科などで、宇都宮の良さを話す時間や、宇都宮の特産品について知る機会を設けた。教科書以外の写真などを探し、児童に身近に感じてもらえるような教材作りに努めた。 2については、今年度は全体での宇都宮学の研修は実施できなかったが、各学年で必要に応じて情報共有を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇都宮に関する学習をする際に、写真や作った資料は保存し、共有する。 「宇都宮学」についての研修をする。

<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 GIGA スクール構想の実施に向け、各教科等で、タブレットパソコンやインターネット等を効果的に活用する授業を意図的にを行い、年計に位置付ける。また、そのための研修を行う。</p> <p>2 担任と図書館司書が連携して、学習に必要な本を用意したり、調べ学習の場を工夫したりして、児童の学びを深める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 95.8%↑ 児童 89.6%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、副校長や情報主任を中心にプロジェクトチームを立ち上げ、全職員が積極的に授業に取り入れることができた。また、児童の個人用パソコン操作に関わる研修もあったことで、効果的な活用ができた。 ・2については、教科や単元に応じて連携を図ることで、充実した学習にできた。 ・今年度は、どの学年においても個人用パソコンを積極的に活用していたため、書くのが苦手な児童でも、AIドリル等に意図的に取り組むことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～2の取組を行っていく。 ・発達段階に応じた個人用パソコンの効果的な活用について検討を進める。 ・担任による個人差があるため、それをどう改善するかが課題である。
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 昔遊びの交流や登下校の見守りボランティアとの顔合わせ会、地域の高齢者の方への感謝の手紙を書くことを通して、高齢者への感謝の気持ちをもたせる。</p> <p>2 育成会や地域協議会と連携を図りながら、児童が高齢者とともに活動する機会を設け、高齢者へのいたわりの心を育む。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：地域住民 100%↑ 児童 89.4%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、感染症対策をしつつできる範囲で行った。 ・2については、実施できなかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～2の取組を全職員で行っていく。 ・登下校の時にあいさつに加えて、「いつもありがとうございます。」などの声掛けができるよう指導していく。
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 生活科や社会科及び総合的な学習の時間等に、水や電気、資源について学ぶ機会を通して、それらを大切する態度を育てる。</p> <p>2 児童に対して、授業の内容と関連させながら「持続可能な社会」というキーワードを意図的に用いる。</p> <p>3 環境美化委員会の活動で、節電・節水・リサイクルを呼びかける放送やポスター作成を行い、「持続可能な社会」について、関心を深めさせるようにする。</p> <p>4 避難訓練などを通して、災害の実際や災害への備え等について身近な問題としてとらえ、対応について考えることができるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員▼70.8%↑ 児童 85.6%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1と2については、各学年や学級において工夫して学習の時間を設けることができた。また、校長からの放送でもSDGsについての講話があり、関心が深まった。 ・3については、環境美化委員会では「持続可能な社会」について切り抜いた新聞記事を整理する活動や、紙をリサイクルするために各クラスにリサイクルボックスを設置してもらい回収する活動を行い、関心を深めることができた。 ・4については、避難訓練が縮小実施ではあったが、各学級において、事前・事後の指導をしっかりと行えた。また、道徳の授業などを通じて防災について考えを深めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～4の取組を行っていく。 ・さらに、SDGsの取組について児童に教える機会を増やし、環境に関心をもたせる。

	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 担任は、特別な支援を必要とする児童の実態の把握に努める。</p> <p>2 教育相談のみならず、日々児童と接する中で、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関と連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。</p> <p>3 打合せでの情報交換、ケース会議や教育支援委員会を通して、教職員間での情報共有を図り、児童理解に努め、組織的に支援にあたる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、配慮を要する児童や問題行動について共通理解を図り、組織的に対応することができた。 2については、SC や市教育センター、子ども家庭支援室等との連携を図りながら、個に応じたより良い支援ができた。 3については、教育支援委員会を定期的に関くと共に、毎週の打合わせの時の情報交換により、各学年の配慮児童の実態を知ることができたため、日々の指導に生かすことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～3の具体的な取組を行っていく。 特に3については、教職員間での情報共有をもとに、児童一人一人の理解に努め、より一層組織的な支援を図る。
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 教育活動全体及びいじめゼロ強調月間（5月・9月）の取組を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを徹底指導する。</p> <p>2 いじめアンケートを年間4回実施し、早期発見に努める。</p> <p>3 道徳の時間や交流活動で学んだことが生かせるような学級経営を心掛け、児童同士の温かい人間関係を醸成する。</p> <p>4 いじめに関する校長講話や学校での取組をたより等で保護者にも発信していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 85.2% ↑ 児童 95.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、期間中、代表委員による校内放送でのいじめ撲滅に向けた呼びかけなど、児童主体の取組を行った。 2については、いじめアンケートや教育相談により、児童一人一人の友人関係や悩みを聞き、いじめの早期発見につなげることができた。 4については、いじめに関する校長講話では、具体物を用い、児童の心に訴えかけることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～4の取組を全職員で行っていくとともに、児童間での軽い悪ふざけであったとしても、いじめにつながるような行為は、毅然とした態度で指導をしていく。
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 「1日欠席で電話、2日欠席で家庭訪問」を基本に、家庭との連絡を密にとる。</p> <p>2 不登校の原因がどこにあるのか、児童と話し合う時間を十分にとること、それを取り除く配慮に努める。</p> <p>3 教室に入りにくい児童には、保健室等、教室以外の居場所を提案し、不登校にならないよう配慮する。</p> <p>4 週1回の打合せ時に問題行動等、月1回の職員会議時に不登校等状況についての伝達を行い、全職員で情報を共有し、全教職員で対応にあたる。</p> <p>5 新たな不登校を生まないためにも温かい学級経営に努める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 92.8% 児童 94.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、担任教諭は保護者や児童の心情に寄り添い、家庭の実情に合わせて連絡を取るよう心掛けた。 4については、毎月の職員会議後に、不登校状況についての情報共有を行い、全職員で対応できるような体制を整えた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～5の取組を全職員で行っていく。 特に5については、一人一人の子供の良さを認め、励ます体制作りを、学校全体の取組として、全職員で行っていく。
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 担任は当該児童（保護者）の文化的背景を十分に理解し、他の教職員にも周知を図る。また、学級の他の児童にも当該児童への配慮点を話し、理解を得るようにする。</p> <p>2 日本語指導講師及び日本語指導ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を行う。</p> <p>3 担任は日本語指導講師及び日本語指導ボランティアと綿密な連携を図り、当該児童の学校生活の充実につながるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、教職員間で情報共有をしながら、当該児童の理解に努めることができた。 2、3については、日本語指導講師と担任が、当該児童の日本語指導の内容や学級の様子を共通理解し、学校生活の充実に繋がる支援を行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～3の取組を全職員で行っていく。

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」</p> <p>⇒保護者の肯定的回答率 85%以上</p> <p>「私は、今の学校が好きです。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 児童一人一人の良さを認め、居がいのある学級づくりに努める。</p> <p>2 児童や地域の実態を踏まえて、前年度の評価結果と反省をもとに、教育課程を作成する。</p> <p>3 児童が、学校行事や特色ある教育活動などに意欲的・主体的に取り組めるような場を設定する。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：保護者 93.2% ↑ 児童 90.3% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、肯定的回答の数値向上の根拠として挙げられるのは、本校の研究主題に自己有用感を高める指導を位置付け、全教育活動を通して行うことができたからだと考えられる。 ・2については、児童や地域の実態や、今年度の反省をもとに、教育課程に生かせるようにする。 ・3については、十分な実践とは言えないが、新型コロナウイルスの感染状況をふまえながら、学校行事等を工夫して行うことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～3の具体的な取組を行っていく。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細やかな指導をしている。」</p> <p>⇒保護者の肯定的回答率 85%以上</p> <p>「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」</p> <p>⇒児童の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 基礎・基本の定着を図るために、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認する。</p> <p>2 ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに努める。</p> <p>3 授業の最初に、その授業の流れをミニホワイトボードに示し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>4 チームティーチングや少人数指導、かがやきルームでの指導を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。</p> <p>5 教職員は積極的に研修会に参加し、授業力を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：保護者 87.5% 児童 96.8%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、毎回の授業の中でめあてを確認し、まとめや振り返りも行うことができた。 ・2については、ICT やワークシート等を活用し、分かりやすい授業づくりに努めた。 ・3については、すべての授業では難しいが、流れを示すことで、児童が見通しをもって授業に取り組むことができた。 ・4については、T.T や少人数指導を算数で行ったり、かがやきルームでの指導を行ったりすることで、個に応じた指導ができた。 ・5については、研修会に積極的に参加したり、一人一授業をしたりすることで授業力を高めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～5の取組を行っていく。 ・算数に関しては、習熟度別学習を増やして、児童のレディネスに応じた授業を行う。
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」</p> <p>⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 全教職員が協力し合う体制（共通理解・共通指導）で学校運営に取り組み、児童に関する話合いの場を設ける。</p> <p>2 自己評価シートの作成を通して学校経営への参画意識をもち、担当校務分掌に主体的に取り組む、組織的な運営に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>肯定的回答率：教職員 100% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1について、肯定的回答向上の根拠として、学校運営や児童指導において、打合せの時間やミライムの掲示板機能を活用し、情報共有を積極的に図れたこと、全職員がチーム HOSOYA を合言葉とし、一致団結して業務に取り組めたこと、が考えられる。 ・2については、全職員が学校の重点目標や自身の校務分掌を踏まえた目標を設定し、達成に向けて努力することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1・2の取組を行っていく。

<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 職員室内、個人の机の整理整頓を進め、働きやすい環境を整える。</p> <p>2 勤務時間を意識した働き方をするよう、管理職を中心に声かけを行う。</p> <p>3 ミライムの掲示板を活用した職員間の連絡や、ペーパーレス化に向けた取組を行う。</p> <p>4 月1回「リフレッシュデイ」を設け、意識化を図る。</p> <p>5 業務改善に向けて、行事の反省や話し合いを行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員▼75.0%↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値指標を達成できなかった。昨年度と比較し、肯定的回答率は、14.3ポイント下がってしまった。業務の効率化については、効率化を図っている一方で、新型コロナウイルス対策やGIGA スクール構想の推進（個人用パソコンの導入）など、新たな課題により、かえって業務量が増えていることが理由として考えられる。 ・1については、職員各々が机上の整理整頓を心がけ、無担任の職員が印刷室や給湯室の整理整頓を率先して行うことで、働きやすい環境を整えることができた。 ・2については、各自が「リフレッシュデイ」を設定する方式に改め、実取得割合は高まった。 ・3については、ミライム掲示板の一層の活用が進み、職員会議資料等のペーパーレス化が進んだ。 ・5については、同じ校務分掌の職員同士が連携・分担し、業務改善に向けた取り組みを進めることができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～5の取組を行っていくとともに、今年度の新型コロナウイルス対策のノウハウやGIGA スクール構想推進の成果を反映させていく。 ・行事等の反省をもとに、業務改善を進める。 ・「リフレッシュデイ」の日までに計画的、かつ効率的に仕事が進められるよう、個々の意識向上とアナウンスを強化する。
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上</p> <p>「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 地域学校園教育ビジョンに基づき各分科会でテーマを決め、適切な活動を行う。</p> <p>2 乗り入れ授業を実施し、学校園の児童・生徒の学力の向上や学校生活支援において有効に機能させる。</p> <p>3 小中合同のあいさつ運動や中学生による行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 85.2%↑ 児童 84.6%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、予定した分科会を実施できた。また、分科会ごとのテーマに沿った情報交換を行うことができた。 ・2については、保健体育の授業を1回実施することができた。集団行動を学ぶことを通して、中学校生活への意欲と見通しをもつことができた。 ・3については、小中合同のあいさつ運動を2回実施することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き可能な範囲で小中一貫教育の取組を行っていく。
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>1 地域協議会や自治会、育成会、PTA、子どもの家（アドベンチャークラブ）等との連携を進め、特色ある活動の充実を図る。</p> <p>2 放課後子ども教室（スマイルほそや）との連携を図り、地域の教育力を生かした体験的な学習活動を行う。</p> <p>3 地域ボランティアや地域企業等の協力を得ながら、専門的、体験的な学習活動を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 100%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1・2については、新型コロナウイルスの感染状況によって活動を自粛した時期もあり、可能な範囲での実施となった。 ・3については、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施が難しくなった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～3の取組を、地域やPTAと協力しながら全職員で行っていく。

	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 校外学習、オープンスクール、交流学习、ふれあい活動など、諸活動に参観や参加できる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。</p> <p>2 児童の教育活動の支援となるよう、学校支援ボランティアを募集・活用していく。</p> <p>3 出前授業等も積極的に取り入れる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：児童 90.3% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、1・2年生生活科の「まちたんけん」、3年「博物館見学」の校外学習等、新型コロナウイルス感染症予防策を講じながら実施できた。また、土曜授業として予定していたオープンスクールは実施できなかったが、3時間分散の授業参観を実施することができた。 2については、家庭科の学習でボランティアを募集しなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実現できなかった。 3については、警察音楽隊による音楽鑑賞教室、ふれあい文化教室として、和太鼓の体験型授業を実施することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～3の取組を行っていく。 3については、オンラインの出前授業も視野に入れていく。
	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 安全点検や日常の観察を通して、施設・設備の安全管理に努める。</p> <p>2 メール配信システムを活用し、児童の安全確保に努める。</p> <p>3 緊急避難時に備え、非常階段や防火扉周辺を整理したり、災害備蓄品の管理を徹底したりする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 90.6% 地域住民 100% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、毎月の安全点検を中心に安全管理に努めたことで、安全に配慮した環境づくりができた。 2については、不審者情報や下校状況など、注意喚起メール配信を行い、迅速な対応に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～3の取組を全職員で行っていく。
	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 タブレットパソコンやデジタル教材等、ICT機器の整備に努めるとともに、校内研修を通して教職員の指導力向上を図る。</p> <p>2 本に親しみやすい図書室を目指して環境整備に努めるとともに、担任と図書館司書が連携して、学習に必要な本を用意したり、調べ学習の場を工夫したりする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 95.8% ↑ 児童 89.6% ↑</p> <ul style="list-style-type: none"> 1については、副校長を中心とした校内研修のきめ細やかな実施により、指導力向上につながった。 2については、国語や総合などの調べ学習において積極的に活用することができた。また、市立図書館の希望図書を活用するなど、児童が本に親しめる環境作りを行った。 個人用パソコンを用いた学習の時間を各学年の実態に応じて実施した。使い方に慣れることや、繰り返し学習することができ、よかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～3の取組を全職員で行っていく。
<p>本校の特色課題</p>	<p>B1 地域協議会を核として子どもが様々な体験ができる温かい学校づくりを進める。</p> <p>【数値指標】全体アンケート「地域や地域協議会の方々は、児童のために様々な活動や協力をしている。」 ⇒地域住民の肯定的回答率 85%以上 「地域の人たちは、授業に協力してくれたり、楽しい行事を計画してくれたりする。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 地域の方々の協力を得ながら、田植えや稲刈りを行い、収穫した米を総合的な学習の時間や生活科・家庭科などで活用したり、地域福祉施設等に寄付したりして、地域の人々と自然と触れ合う場を設定する。</p> <p>2 地域協議会やPTAと協力し、「文化祭」「読み語り」など、豊かな体験活動を展開する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：地域住民 100% ↑ 児童 90.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> 1について、2・5年生は活動時間を短縮するなどし、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら田植えを実施することができた。また、収穫した米を5年生の家庭科の調理実習に活用することができた。 2については、新型コロナウイルス感染症拡大により「文化祭」は実施できなかったが、「読み語り」は給食時の校内放送を利用するなどし、工夫して実施することができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き1～2の取組を行っていく。

等	<p>B2 児童は、時間を守って行動している。 【数値指標】全体アンケート「児童は時間を守って行動している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、時間を守って行動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 教師自らが時刻を守って授業を開始・終了し、率先して行うことによって時間を守る意識を育てる。 2 放送委員の自主的な活動により、時間を守ることが習慣化されるよう支援する。 3 チャイムがなくても行動できるよう、児童の意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 79.2% 児童 81.7% ・2については、放送委員の児童が意欲的に活動し、朝の学習や清掃が始まる前に音楽をかけたリ、呼びかけをしったりすることで、時間意識をもって行動できるようになった。 ・3については、時計を見ながら行動できる児童が増えてきたが、個人差が見られるので、継続して指導していく。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を全職員で行っていく。 ・特に3については、授業前着席・準備を徹底する。</p>
	<p>B3 児童は自分の体に関心を持ち、健康的な生活を送っている。 【数値指標】全体アンケート「児童は自分の体に関心を持ち、健康的な生活を送っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上 「私は、自分の体に関心を持ち、健康的な生活を送っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 毎月「保健だより」を発行し、健康な生活習慣形成のための情報を提供するとともに、学級でも、季節や学校行事に関連した健康に関する話題を日常的に提供する。 2 自分の体に関心を持ち、健康な体づくりができるように健康診断の事前・事後指導を充実させる。また、学年だよりや学校だより等を活用して保護者への啓発を行い、健康診断後の受診率の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 83.3% 児童 89.9%↑ ・1については、毎月の保健だよりの発行や保健委員会の定期的な放送により、話題の提供が活発であった。 ・2については、各種たよりで発信することで、保護者への啓発が効果的に行われた。 【次年度の方針】 ・引き続き1～2の取組を全職員で行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症予防策として、手洗い・うがい・消毒・3密回避、換気等の活動が日常化するよう繰り返し指導していく。</p>
	<p>B4 児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。 【数値指標】学校アンケート「児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上 「私は、音読や漢字、計算の学習に進んで取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>1 単元ごとの音読テスト、朝の学習を利用した計算練習、漢字・計算オリンピックの実施（年2回）、宮っ子学カステップアップシート等を活用し、一人一人の学力の定着・向上を図る。 2 家庭学習についても教師間で共通理解を図り、児童や保護者に対しては、「学習の仕方」「家庭学習の大切さ」などを知らせ、家庭学習の充実を目指す。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 ▼50%↓ 児童 78.5%↑ ・1については、年に2回漢字・計算オリンピックを実施したことで、漢字や計算の学習に意欲的に取り組む姿が見られた。基礎学力の定着には有効であるが、個人差があり、苦手な児童を引き上げることが難しい。 ・2については、発達段階に応じた内容や量の宿題を出しているが、個人差があり、なかなか家庭学習の充実に結びつかない。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に、漢字、計算を中心したプリントやノートでの学習を行ったり、AIドリルを活用したりして、定着を図る。 ・夏休み明け、冬休み明けの2回の漢字・計算オリンピックの結果を頑張りカードとして記録し、保護者のコメントを記入してもらい意欲を高める。 ・低学年は、教師が丸付けをするが、発達段階に応じて、自己採点をする機会を設け、見直しの習慣をつける。 ・宿題の内容を学年でよく相談し、学年に応じた内容を精選する。特に、音読・漢字・計算は継続して行う。</p>

<p>B5 交流学習（聾学校や高齢者との活動）やなかよし班活動によって、児童に思いやりのある温かい心が育っている。</p> <p>【数値目標】学校アンケート「交流学習（聾学校や高齢者との活動）やなかよし班活動によって、児童に思いやりのある温かい心が育っている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上 「私は、交流学習（ろう学校や高齢者との活動）やなかよし班活動をするのが楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 豊かな感性の醸成を図れるように心の教育活動（なかよし班活動・高齢者との交流・聾学校との交流・幼稚園との交流）をコロナ禍でも可能な方法を工夫して行う。</p> <p>2 交流活動の中で身に付いたものが、日々の学校生活の中でも生かせるよう支援していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：教職員 87.5% 児童 84.2%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、聾学校と学習や生活の様子を動画に撮影し合い、交流することができた。なかよし班活動は、新型コロナウイルス感染状況により実施の可否を検討し、可能な範囲で実施することができた。 ・2については、今年は感染対策として学校紹介DVDでの交流を実施した。DVD視聴後、手紙の交流を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～2の取組を全職員で行っていく。 ・どのような交流の仕方があるのか、都度検討していく。
<p>B6 教科指導や朝の読書などで、読書活動を推進している。</p> <p>【数値目標】学校アンケート「学校は読書活動を推進し、児童の読書への関心を高めている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 85%以上 「私は、朝の読書や読み聞かせに楽しく参加している。」 ⇒児童の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>1 朝の読書やボランティアによる読み語り、委員会による読書イベント等を通して、読書活動の充実を図る。</p> <p>2 学校図書館や、学級文庫の本の充実を図る。</p> <p>3 「家読のすすめ」を行い、家庭での読書意欲の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答率：保護者 86.2% 児童 86.4%↑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1については、朝の読書を中心に朝や給食、図書室での読み語りを積極的に実施していた。また、委員会の読書イベントや活動も、工夫して実施した。 ・2については、年2回の図書選定委員会を実施し、蔵書の充実を図った。また、リサイクル図書を活用し、学級文庫の充実を図った。 ・3については、毎月「家読のすすめ」を配付し、提出されたものには司書がコメントして返却するなど、意欲を高められるよう取り組んだ。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き1～3の取組を全職員で行っていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・数値指標を達成できている項目は、21項目あり、昨年度より7項目増えた。
- ・多くの項目で、昨年度より肯定的回答率が上がっている。特に9項目は昨年度より10ポイント以上上がっている。
- ・教職員の肯定的回答率は、6項目で昨年度より5ポイント以上上がっている一方、3項目が5ポイント以上下がった。（A8, A20, B4）特に、B4「児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。」については、20.4ポイント下がってしまった。基礎的な学力をこれまでよりも向上させていきたいというこの現れととらえられる。
- ・保護者の肯定的回答率は、多くの項目で昨年度より上がり、9項目は、5ポイント以上上がった。（A2, A3, A9, A10, A11, A14, A25, B2, B4）特に、A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」については、8.5ポイント上がった。いじめの早期発見早期対応に努めるとともに、家庭との連携を強化してきたことが、数値の向上につながったと考えられる。
- A3「児童生徒は、きまりやマナーを守って生活している」は、数値目標には達しなかったが、昨年度より数値が上がってきている。
- ・市小学校全体の割合と比較すると、低い項目もあるが、全体としては、ほぼ同様の傾向にある。

7 学校関係者評価

- ・学校がきめ細やかな対応をしていることが分かる。
- ・学校生活や学習が充実して楽しくなる環境づくりをしていることが良く分かる。
- ・学校がいじめ対策を強化し、根絶に取り組む努力が、保護者・地域・児童に浸透しており高く評価したい。
- ・SDGsのポイントが倍増しすばらしい。今後の指導・活動にも期待したい。
- ・多くの項目で前年度と比較し改善が見られる。教職員の指導と児童の取組の結果だと思う。
- ・各項目の教職員・保護者・地域住民・児童生徒の肯定的回答割合には大きな差がないものがほとんどで、実態に近い結果だと思う。
- ・児童の肯定的回答が前年比で5ポイント以上上がった項目が、8項目もあってすばらしい。
- ・新型コロナウイルス感染の渦中大変かもしれないが、児童のため指導をよろしく願いたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染の収束が未だ見えない状況の中での教育活動となった。昨年度の経験や反省を踏まえ、感染症対策と教育的効果等とのバランスをとりつつ実践してきたことが、多くの項目で肯定的回答割合が上昇したことにつながったものとする。
- ・次年度は、特に以下の内容について取組を拡充していく。
 - ・児童が、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組めるようになること。
 - ・児童が、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力したりできるようになること。
- 児童の基礎的な学力を身につけること。
 - ・教職員が今年度のGIGAスクール構想推進の取組成果を生かすなどして、働き方改革を進めること。